



米国大学での 教鞭経験を生かし 質の高い歯科医療の 提供に取り組む

和田圭祐院長は15年間の滞米中、大学院で博士号を取得し、2つの大学で教鞭をとってきた。日本で開業した経緯や日米の治療の違い、今後について伺ってみた。

i-スマイル歯科クリニック 東京 院長 和田 圭祐 先生



周囲からの応援を力に 難関大学院への留学を決意

「i-スマイル歯科クリニック 東京」があるのは、渋谷区のなかでも住宅が多い東北沢駅から徒歩1分ほどにあるマンションの1階だ。2020年4月に開業したばかりだが、すでに600人以上の新患が訪れている。

「新しい歯科医院ができたから」と受診する近隣の患者もいるが、インプラントと歯周病を専門とする和田圭祐院長の知識と技術を求めて、他の一般歯科医院や矯正歯科から紹介された患者も多い。

その信頼の高さは、経歴を何うとうなずける。広島大学歯学部を卒業後、名古屋大学医学部大学院に進学。大学院の在学中に渡米し、1年間、ハーバード大学歯学部大学院で客員研究員の立場で学んだ。

いったん帰国するも、「さらに深く学びたい」という意欲に突き動かされ、ハーバード大学歯学部大学院を受験。難関を突破し、再び渡米。同大学院の博士および歯周病専門医課程で4年間学び、歯学博士を取得したのち、ペンシルバニア大学とテンプル大学の2つの歯学部で准教授ならびに主任教授を務めた。そして2019年、15年間の滞米を終えて帰国し、東京での開業に至っている。

海外留学は珍しくないが、和田院長のように大学院

に進学し、歯周病インプラント学講座の主任教授となった日本人歯科医師は和田院長が初めてである。歯科医師を目指してから、アメリカでの経験を経て、日本で開業するまでの道のりを和田院長は、「運がよかったとしか言いようがない」と語る。

「目の前で扉が次々と開き、それに導かれるように進んだという気持ちです。留学と教職のため、アメリカに長期滞在できたのは、一つに歯科医師である父を始め、家族の応援があったからです。うちは祖父や叔父も歯科医師の一家なのですが、父は『まだまだ元気で診療できるから留学してこい』と背中を押してくれたのです」

そして、もう一つ、恩師の励ましも支えになった。大学時代、父に同行し、アメリカのインプラント学会を見学したことがきっかけで、留学を夢見るようになった和田院長は、日本の大学院に進む際、留学に理解のある教授のもとで学びたいと考えた。名古屋大学大学院を進学先に選んだのは、再生医療・顎顔面外科を専門とする上田実教授に師事したかったからだ。

「大学院の入試面接で上田教授に留学への夢を話したら、『それはいい』と応援してくださったんです。ハーバード大学の大学院に合格したときも、快く医局から送り出してくださいました。先生からいただいた数々の言葉は、ずっと心の支えになっています」